

日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会 PRA 品質確保分科会  
第 37 回会合議事録

日時：2021 年 2 月 24 日（水）14:00～16:10

場所：Cisco WebEx Meeting による Web 会議

出席者（敬称略）

委員：桐本主査（電中研），藤崎幹事（関電），木村（日立 GE），倉本（NEL），  
齋藤（東電 HD），櫻井（原電），田中（MHI），玉木（中部電），  
日高（テプシス），吉田（JAEA）

10 名出席

常時参加者：寺崎（九電）

傍聴者：なし

欠席委員：糸井（東大），小森（東芝 ESS）

配付資料：

RK4SC37-1：第 36 回 PRA 品質確保分科会議事録案

RK4SC37-2-1：IRIDM 標準英訳版の作成について

RK4SC37-2-2：IRIDM 標準英訳ワークシート（集約）

RK4SC37-3：JCNRM(ASME)への質問事項について

RK4SC37-4：標準作成 5 ヶ年計画の改定について

RK4SC37-5：分科会スケジュール案

議事：

1. 定足数の確認

委員 12 名中 10 名が出席しており，本会議が議決に必要な定足数を満足していることが確認された。

2. 前回議事録の確認（RK4SC36-1）

RK4SC37-1 に基づき，第 36 回分科会の議事録を確認し，一部誤字を修正したうえで，正式版とすることが了承された。

3. IRIDM 標準英訳版の作成について（RK4SC36-2-1～2）

RK4SC36-2-1～2 に基づき，藤崎幹事から IRIDM 標準英訳版の 1 次案の集約結果が共有され，用語の統一に関する議論を行った。用語の統一を受け各自担当箇所の修正を行い，集約することとなった。また，RK4SC36-2-1 は今回の議論内容を反映し，統合的安全性向上分科会の倉本幹事に提供することとなった。

- リスクに対する変化量は，NUREG-2122 で用いる単語を参照に「change(change in risk)」で統一する。
- 判断基準は「Judging criteria」では無く，許容できる基準という意味で「Acceptance criteria」で統一する。
- 電力事業者，実施者，組織等のプラント運営の当事者を指す名詞は，修飾する言葉に応じて，「organization」「operator」を使い分ける。
- 評価値については「evaluation」で統一する。
- 指標に対する英単語の扱いは，指標単体を表す単語は「metrics」，リスク重要度指標など個別に用いる場合は「(Risk importance) measure」とする。

4. JCNRM(ASME)への質問事項について（RK4SC37-3）

RK4SC37-3 に基づき，藤崎幹事から JCNRM(ASME)への質問事項に関する追加記載の説

明があった。昨年2月に JCNRM に送付した質問事項について、JIWG より補足説明の追記要請があったため、質問事項に経緯を追記する形で補足説明することとなった。本分科会が終了以降で意見・コメントがあれば、今月までに別途メールにより連絡することとなった。

5. 標準作成5ヵ年計画の改定について (RK4SC37-4)

RK4SC37-4に基づき、桐本主査よりリスク専門部会における2021年度標準作成5ヵ年計画の説明があった。この計画は3月3日の標準委員会に付議され、承認されれば原子力学会より積極的に公開される旨の情報が共有された。

6. 今後のスケジュール (RK4SC37-5)

RK4SC37-5に基づき、今後のスケジュールについて説明があった。

7. 次回分科会日程

次回分科会は、5月24日PMに開催することとした。

以上